

# X シラバス

## 山口学芸大学大学院教育学研究科子ども教育専攻

### <教育学研究科目>

教育原論特論  
教育課程特論  
教育方法特論  
生涯学習・社会教育特論  
生涯学習・社会教育特論演習  
教育心理学特論  
発達心理学特論  
発達臨床心理学演習  
教育臨床心理学特論  
教員のメンタルヘルス特論  
人権教育研究  
福祉・教育特論  
教育と芸術  
特別支援教育特論  
東アジア文化比較論  
幼児教育特論  
小学校授業実践特論  
小学校授業実践特論演習  
指導技術特別演習  
表現活動指導演習  
歌唱表現特別演習  
鍵盤表現特別演習  
造形表現特別演習  
わらべうたの研究  
郷土の美術研究  
第二言語習得研究  
教育情報特論

### <専門研究科目>

教育特別研究Ⅰ  
教育特別研究Ⅱ  
教育特別研究Ⅲ  
教育特別研究Ⅳ

# シラバスの見方

シラバス（講義概要）：シラバスとは、授業に関する詳細な計画書のことです。シラバスには、教科・科目をはじめとする様々な教育活動について、目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等を記載しています。

授 業 科 目 名	①	教 員 名	⑤	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	⑦
ナンバリングコード	②				幼 稚 園 教 諭	⑦
授 業 形 態	③	年次配当	⑥		修 了 要 件	
単 位 数	④					
科 目	⑨ 教科及び教職に関する科目（幼稚園・小学校）					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	⑩					
授 業 概 要	⑪					
達 成 目 標	⑫					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	⑬					
授 業 計 画	⑭					
成 績 評 価 基 準	⑮ 評価の方法： 評価の基準：					
フィードバックの 方 法	⑯					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	⑰ 予習： 復習：					
教材にかかわる 情 報	⑱ テキスト： 参 考 書： 参 考 資 料 等：					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	⑲					
備 考						

- ①授業科目名を記載しています。
- ②科目ナンバリングコードを記載しています。詳細は「ナンバリングシステムについて」で確認してください。
- ③授業形態を記載しています。講義・演習・実技・実習等。
- ④単位数を記載しています。
- ⑤担当教員名を記載しています。
- ⑥履修年次と開講期間を記載しています。
- ⑦免許・資格を得るために必要な科目として必修・選択を記載しています。
- ⑧卒業資格を得るために必要な科目として必修・選択を記載しています。
- ⑨免許・資格を得るために必要な科目について必要事項・科目区分・系列を記載しています。
- ⑩授業のねらいやテーマについて記載しています。
- ⑪授業のあらましを記載しています。
- ⑫到達目標について記載しています。授業計画の中に当てはまる目標を記載しています。
- ⑬履修する科目の順番や条件等注意事項を記載しています。
- ⑭授業スケジュール（各回で扱う内容等）を記載しています。
- ⑮成績の評価方法と評価基準を記載しています。
- ⑯課題等（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法について記載しています。
- ⑰担当教員より、この授業科目の予習・復習についてのアドバイスを示しています。
- ⑱教科書及び補助教材について記載しています。
- ⑲担当教員より学生に伝えたいメッセージ等を記載しています。

## 教育課程ナンバリング・システムについて

山口学芸大学で開講されている全ての授業科目（教養科目・学部専門科目・大学院専門科目）に対し、授業内容やレベル、更に免許・資格との関連性等に応じて特定の記号や数字を付与し、教育課程表やシラバスに記載することにより教育学部としての、体系的な教育プログラムの実現を目指すものです。

### 【教育課程ナンバリング 表示例】

教養科目「日本国憲法」 CM1-1001-21110

①	②	-	③	-	④
CM	1		1001		21110
学部等領域コード	学年水準コード		科目区分識別コード		免許・資格コード

- 【学部等領域コード】 (表①参照) 科目を提供する学部や研究科等を表す2文字の英文字です。
- 【学年水準コード】 (表②参照) 科目の開講学年を示す1桁の数字で表しています。数字と授業レベルは必ずしも一致するものではありません。
- 【科目区分識別コード】 (表③参照) 教育課程の科目区分（1桁）とそれぞれの通し番号（3桁）で表しています。
- 【免許・資格コード】 (表④参照) 1桁から5桁まで、各資格免許に関する必修・選択を、1（必修）・2（選択）の番号で表しています。免許・資格に関連のない場合は0で表します。

① (学部等領域コード)	UM (University+Master) :	大学院教育学研究科	
	CM (Common+Subject) :	教育学部共通開設科目	
	UC (University+Childhood) :	初等幼児教育専攻開設科目 (両コース)	
	UL (University+Language) :	英語教育専攻開設科目 (高校免許科目含む)	
② (学年水準コード)	1:	1年次開設科目	
	2:	2年次開設科目	
	3:	3年次開設科目	
	4:	4年時開設科目	
	5:	大学院1年次開設科目	
	6:	大学院2年次開設科目	
	7:	その他	
③ (科目区分識別コード)	1:	001~017 教養科目	
	2:	001~127 学科目	
	3:	001~011 芸術表現	
	4:	001~009 子ども学	
	5:	001~009 グローバル学	
	6:	001~ ゼミナール	
	7:	001~010 教育実習	
	8:	001~006 保育実習	
	9:	001~003 実践演習	
	10:	001~ その他	
④ (免許・資格コード) 【表記例 : 日本国憲法】 保が選択で、幼・小・中が必修の場合 21110 と表記 (資格・免許に関係のない場合は0 と表記)	0:	資格免許外の科目	1桁目 保育士資格の専門科目
	1:	必修科目	2桁目 幼稚園教諭免許の専門科目
	2:	選択科目	3桁目 小学校教諭免許の専門科目 4桁目 中学校・高校免許の専門科目 5桁目 特別支援教諭免許の専門科目

授 業 科 目 名	教育原論特論	教 員 名	川 野 哲 也	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM-5-9001-02300				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	講 義	年次配当	1 年前期		修 了 要 件	
単 位 数	2					
科 目	教科及び教職に関する科目（幼稚園及び小学校）					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	教育と政治に関する思想、教育制度と教育実践に関する理論的考察					
授 業 概 要	民主主義、リベラリズム、共同体主義、公共性など政治と教育に関する思想について理解するとともに、教育制度と教育実践について理論的に分析、考察する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リベラリズムの思想の特徴を理解し、教育制度や教育実践について考察する。</li> <li>2. 共同体主義の特徴を理解し、教育制度や教育実践について考察する。</li> <li>3. 公共性の思想の特徴を理解し、教育制度や教育実践について考察する。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の目的は何か。民主主義に関する諸理論。（目標 1,2,3）</li> <li>2. リベラリズムの思想 教育の権利。（目標 1）</li> <li>3. リベラリズムの思想 公民教育のあり方。（目標 1）</li> <li>4. リベラリズムの思想 学校選択制度。公教育の問い直し。（目標 1）</li> <li>5. デューイの思想 民主主義と教育。（目標 1,2,3）</li> <li>6. 再生産理論の問題提起、不平等な社会秩序、多文化社会の課題。（目標 1,2,3）</li> <li>7. 共同体主義、アリストテレスの思想、美徳。（目標 2）</li> <li>8. 共同体主義、公民教育、愛国心教育、共同体のための教育。（目標 2）</li> <li>9. 共同体主義、共同体の中の教育、地域運営学校。（目標 2）</li> <li>10. 公共性の思想、公的領域と私的領域。（目標 3）</li> <li>11. 公共性の思想、学校と教師の位置。（目標 3）</li> <li>12. 公共性の思想、＜活動＞（目標 3）</li> <li>13. 公共性の思想、学級づくり、演劇教育。（目標 3）</li> <li>14. 公共性の思想、開かれた学校制度。（目標 3）</li> <li>15. まとめ。（目標 1,2,3）</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：それぞれの思想の特徴について説明できるか。 思想に照らし合わせながら教育制度や教育実践を考察できるか。</p> <p>評価の方法：授業中の確認テスト50%、レポート50%</p>					
フィードバックの 方 法	毎時、学生には課題を出す。課題回収後に解説を行う。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：事前に配布したプリントを読み、必要に応じて調べること</p> <p>復習：プリント、ノートを見て、確認すること</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：宮寺晃夫著『リベラリズムの教育哲学 多様性と選択』勁草書房、2000年。 小玉重夫著『教育改革と公共性 ポウルズ＝ギンタスからハンナ・アレントへ』東京大学出版会、1999年。 ハンナ・アレント著、清水速雄訳『人間の条件』ちくま書房、1994年。</p> <p>参 考 書：適宜プリントを配布する。</p> <p>参 考 資 料 等：佐伯啓思著『日本の愛国心』N T T 出版、2008年。 岡田敬司著『人間形成にとって共同体とは何か』ミネルヴァ書房、2009年。</p>					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ						
備 考						

授 業 科 目 名	教育課程特論	教 員 名	松村 納央子	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM-5-9002-02300				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	講 義	年次配当	1 年前期		修 了 要 件	
単 位 数	2					
科 目	教科及び教職に関する科目（幼稚園及び小学校）					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	近代・現代の教育課程の考察					
授 業 概 要	デューイとブルーナーの教育課程論の理解をふかめながら、今日の教育課程の諸問題を考察する。					
達 成 目 標	1. 教育課程の基本問題を把握する。 2. 教育課程の諸概念の理解をふかめる。 3. 今日の教育課程に関する教育課題の考察・追究力をたかめる。					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	1. デューイの教育課程論Ⅰ - 「活動的作業の位置」(目標 1,2) 2. デューイの教育課程論Ⅱ - 「教育課程における歴史、地理、科学」(目標 2) 3. デューイの教育課程論Ⅲ - 「教育的価値(1)」(目標 1,2) 4. デューイの教育課程論Ⅳ - 「教育的価値(2)」(目標 1,2) 5. デューイ実験学校の教育実践Ⅰ - 「『学校と社会』第1章」(目標 1,2,3) 6. デューイ実験学校の教育実践Ⅱ - 「『学校と社会』第2章」(目標 2,3) 7. デューイ実験学校の教育実践Ⅲ - 「『学校と社会』第3～8章」(目標 2,3) 8. デューイ実験学校のカリキュラムの実際Ⅰ - 「4～6歳グループ」(目標 1,2) 9. デューイ実験学校のカリキュラムの実際Ⅱ - 「7～8歳グループ」(目標 2) 10. デューイ実験学校のカリキュラムの実際Ⅲ - 「9～11歳グループ」(目標 2) 11. ブルーナーの教育課程論Ⅰ - 「ブルーナー仮説」、「スパイラルカリキュラム」(目標 1,2) 12. ブルーナーの教育課程論Ⅱ - 「実践的カリキュラム論」(目標 2) 13. 現代の教育課程論Ⅰ - 「アメリカの教育課程論の動向」(目標 1,2,3) 14. 現代の教育課程論Ⅱ - 「クロスカリキュラム論」(目標 2,3) 15. 今日の教育課程の課題 - 「カリキュラム評価、カリキュラム経営」(目標 2,3)					
成 績 評 価 基 準	評価の基準：知識・理解、思考・判断 評価の方法：毎回の発言・質問、レポート					
フィードバックの 方 法	テキストとの解説とともに、考察についてコメントし合う。 授業改善方法について話し合う。					
時 間 外 の 学 習 について	予習：次回のテキスト該当箇所を読む 復習：ノート提出・点検					
教材にかかわる 情 報	テキスト：デューイ著・松野安男訳『民主主義と教育(上)(下)』岩波文庫 デューイ著・宮原誠一訳『学校と社会』岩波文庫 ブルーナー著・鈴木祥三他訳『教育の過程』岩波書店 参 考 書：メイヨー、エドワーズ共著・梅根悟他訳『デューイ実験学校』明治図書 田中統治・根津朋実共著『カリキュラム評価入門』勁草書房 参考資料等：					
担当者からの メ ッ セ ー ジ						
備 考						

授 業 科 目 名	教育方法特論	教 員 名	川 野 哲 也	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM-5-9003-02300				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	講 義	年次配当	1 年後期		修 了 要 件	
単 位 数	2					
科 目	教科及び教職に関する科目（幼稚園及び小学校）					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	近代・現代の教育方法論の考察					
授 業 概 要	<p>デューイの『民主主義と教育』、『思考の方法』等を主要文献として探究を基軸とするかれの教育方法論の理解をふかめる。またブルーナーの『教育の過程』等でかれの構造学習論を把握しながら、今日の社会的構成主義学習論の考察へとつないでいく。</p> <p>学生にプレゼンテーションをさせる際にはパソコン等の情報機器を使用させ、教材の提示・活用方法についても指導する。</p>					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法論の基本問題を把握する。</li> <li>2. 教育方法の諸概念の理解をふかめる。</li> <li>3. 今日の教育方法に関する教育課題の考察・追究力をたかめる。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. デューイの教育論Ⅰ - 「生命に必要なものとしての教育」（目標 1,2）</li> <li>2. デューイの教育論Ⅱ - 「社会の機能としての教育」（目標 2）</li> <li>3. デューイの教育論Ⅲ - 「指導としての教育」（目標 2）</li> <li>4. デューイの経験学習論 - 「ひとつの経験」、「経験と実験」（目標 1,2）</li> <li>5. デューイの知識学習論 - 「知識と情報」（目標 1,2,3）</li> <li>6. デューイの探究的思考論Ⅰ - 「探究過程論」（目標 2）</li> <li>7. デューイの探求的思考論Ⅱ - 「探究の二つの操作、二つの構成要素」（目標 2）</li> <li>8. デューイの探求的思考論Ⅲ - 「探究過程と情報知」（目標 1,3）</li> <li>9. デューイの教育方法論Ⅰ - 「教師の指導性」（目標 2）</li> <li>10. デューイの教育方法論Ⅱ - 「発問論」（目標 2）</li> <li>11. ブルーナーの学習論Ⅰ - 「ブルーナー仮説」（目標 1,2,3）</li> <li>12. ブルーナーの学習論Ⅱ - 「構造学習」（目標 2）</li> <li>13. ブルーナーの学習論Ⅲ - 「学習意欲」（目標 2）</li> <li>14. ブルーナーの学習論Ⅳ - 「乳幼児の言語学習」（目標 2）</li> <li>15. 今日の学習論の考察 - 「社会的構成主義学習論」（目標 1,2,3）</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：知識・理解、思考・判断          評価の方法：毎回の発言・質問、プレゼンテーション内容</p>					
フィードバックの 方 法	<p>テキストの解説とともに、考察についてコメントし合う。          授業改善方法について話し合う。</p>					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：次回のテキスト該当箇所を読む          復習：ノート提出・点検</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：デューイ著・松野安男訳『民主主義と教育（上）（下）』岩波文庫          ブルーナー著・鈴木祥三他訳『教育の過程』岩波書店          参 考 書：森 昭著『経験主義の教育原理』金子書房          ブルーナー著・平光昭久訳『教育の適切性』明治図書 他          参考資料等：</p>					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ						
備 考						

授 業 科 目 名	生涯学習・社会教育特論	教 員 名	田代 直人	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM-5-9004-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	講義	年次配当	1 年前期	修 了 要 件	選 択	
単 位 数	2					
科 目						
各科目に含める ことが必要な事項						
施 行 規 則 に 定める科目区分						
授 業 テ ー マ	生涯学習・社会教育					
授 業 概 要	生涯学習・社会教育の専門的事項についての理解を深めるとともに、学校教育と社会教育の連携に関して論じる。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯学習に関する高度の専門的事項について理解することができる。</li> <li>2. 社会教育に関する高度の専門的事項について理解することができる。</li> <li>3. 学校教育と社会教育の連携の理論と実際について理解することができる。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション～授業のねらい、内容、評価方法などについて説明（目標 1,2,3）</li> <li>2. 生涯学習の提唱と日本における発展～国の審議会の答申等の考察（目標 1）</li> <li>3. 生涯学習のキー（鍵）概念についての考察（目標 1）</li> <li>4. 生涯学習の基本的なねらいと概念の規定の点検（目標 1）</li> <li>5. 生涯学習の推進と体験学習の意義・充実（目標 1,2） ～「知識伝達型の教育」から「体験重視の教育」への改革動向に関する考察</li> <li>6. 生涯学習の観点から見た社会教育の意義と基本的方向に関する考察（目標 2）</li> <li>7. 少年教育の意義・重要性と課題（目標 2）</li> <li>8. 青年教育の意義・重要性と課題（目標 2）</li> <li>9. 成人教育の意義・重要性と課題（目標 2）</li> <li>10. 高齢者教育の意義・重要性と課題（目標 2）</li> <li>11. 社会教育施設～施設の概念の点検及び公民館・青少年施設の課題（目標 2）</li> <li>12. 社会教育行政の基本原則と組織体制の課題（目標 2）</li> <li>13. 学校教育と社会教育の連携～連携を充足する要件に関する理論的考察（目標 3）</li> <li>14. 学校教育と社会教育の連携～事例的考察（飯塚市の生活体験学校等）（目標 3）</li> <li>15. 授業の総括（目標 1,2,3）</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：達成目標をおおむね満足していること。</p> <p>評価の方法：レポートにより100%評価する。</p>					
フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	提出されたレポートは、コメントして返却する。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：講義資料を必ず読んでよくること。</p> <p>復習：講義内容について復習し、不明な点があれば教員に質問のこと。</p>					
教 材 に か か わ る 情 報	<p>テキスト：田代直人編『社会教育の理論と実践』樹村房 1994年 田代直人「生涯学習の概念に関する一考察～教育行政の今日的課題」西日本教育行政学会『教育行政学研究』第21号 2000年 田代直人「学社融合に関する一考察（1）－学社融合を充足する要件とは何かをめぐって～」山口大学教育学部研究論叢 第51巻第3部 2001年 その他関係の田代の著書・論文等</p> <p>参 考 書：適宜紹介する。</p> <p>参考資料等：</p>					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ						
備 考						

授 業 科 目 名	生涯学習・社会教育 特論演習	教 員 名	田代 直人	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM-5-9005-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演 習	年次配当	1年後期	修 了 要 件		選 択
単 位 数	2					
科 目						
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	生涯学習の原理					
授 業 概 要	①生涯学習の概念に関する考察 ②発達課題に関する考察 ③経験主義的教育論に関する考察の観点から、ラングラン著『生涯教育入門』等の重要文献を講読する。					
達 成 目 標	1. ラングランの生涯教育論に関する理解を深めることができる。 2. ハヴィガーストの発達課題論に関する理論を深めることができる。 3. デューイの経験主義的教育論に関する理論を深めることができる。					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	1. オリエンテーション～授業のねらい、内容、評価方法等の説明 (目標 1,2,3) 2. ラングラン『生涯教育入門』の講読 (1) (目標 1) 3. ラングラン『生涯教育入門』の講読 (2) (目標 1) 4. ラングラン『生涯教育入門』の講読 (3) (目標 1) 5. ラングラン『生涯教育入門』の講読 (4) (目標 1) 6. 総括 レポートの提出・発表及び指導 (目標 1) 7. ハヴィガースト『人間の発達課題と教育』の講読 (1) (目標 2) 8. ハヴィガースト『人間の発達課題と教育』の講読 (2) (目標 2) 9. ハヴィガースト『人間の発達課題と教育』の講読 (3) (目標 2) 10. ハヴィガースト『人間の発達課題と教育』の講読 (4) (目標 2) 11. 総括 レポートの提出・発表及び指導 (目標 2) 12. デューイ『民主主義と教育』の講読 (1) (目標 3) 13. デューイ『民主主義と教育』の講読 (2) (目標 3) 14. デューイ『民主主義と教育』の講読 (3) (目標 3) 15. 総括 レポートの提出・発表及び指導 (目標 3)					
成 績 評 価 基 準	評価の基準：達成目標をおおむね満足していること 評価の方法：授業時間における発表 (50%) およびレポート (50%) により評価する					
フィードバックの 方 法	提出されたレポートは、コメントして返却する。					
時 間 外 の 学 習 について	予習：演習で使う文献を読んでくること 復習：毎時間の演習において復習し、不明な点があれば教員に質問のこと					
教材にかかわる 情 報	テキスト：①P.ラングラン著・波多野完治訳『生涯教育入門』全日本社会教育連合会 1990年 ②R.ハヴィガースト著・荘司雅子監訳『人間の発達課題と教育』玉川大学出版部1995年 ③J.デューイ著・金丸弘幸訳『民主主義と教育』玉川大学出版部 1997年 (第4刷) なお、①～③の文献は必要に応じて原著を用いる。 参 考 書：適宜紹介する。 参 考 資 料 等：					
担 当 者 からの メ ッ セ ー ジ						
備 考						



授 業 科 目 名	教育心理学特論	教 員 名	名 島 潤 慈	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM-6-9006-02300				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	講 義	年次配当	2 年 前 期		修 了 要 件	
単 位 数	2					
科 目	教科及び教職に関する科目（幼稚園及び小学校）					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	子どもの学習、知能、パーソナリティ、批判的思考、教育相談、援助技法、障害児					
授 業 概 要	教育心理学の理論や研究成果に基づいて、種々の問題行動・学習意欲の低下・いじめ・学級崩壊・登園拒否・不登校など、幼稚園・小学校におけるさまざまな現代的教育課題と実際的対応法について考究する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの学習や動機づけについて理解する。</li> <li>2. 子どもの知能やパーソナリティについて理解する。</li> <li>3. 教師との関係性や教師のリーダーシップについて理解する。</li> <li>4. 教育相談における援助技法について理解を深める。</li> <li>5. 子どもの問題行動や疾病への対応について理解を深める。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的学習・動機づけの心理学（目標 1）</li> <li>2. 幼児期・学童期における知能の働き・創造性（目標 2）</li> <li>3. 子どものパーソナリティと学校適応（目標 2）</li> <li>4. 子どもの人間関係の発達（目標 2）</li> <li>5. 教師と生徒との関係性（目標 3）</li> <li>6. 教師のリーダーシップの問題（目標 3）</li> <li>7. 教育相談と生徒指導、教育相談における倫理（目標 4）</li> <li>8. 教育相談における言語技法—マイクロカウンセリング（目標 4）</li> <li>9. 教育相談における身体技法—プレイセラピー（目標 4）</li> <li>10. 教育相談におけるイメージ技法—夢分析（目標 4）</li> <li>11. 教育相談における表現技法—コラージュ（目標 4）</li> <li>12. 子どもの問題行動への対応—自傷・乱暴・いじめ・盗み（目標 5）</li> <li>13. 子どもの心身症への対応—夜尿・過換気症候群・過敏性大腸症候群（目標 5）</li> <li>14. 情緒障害児の心理と対応—チック・吃音・不登校・緘黙（目標 5）</li> <li>15. 発達障害児の心理と対応—自閉スペクトラム症・学習障害・注意欠陥多動性障害（目標 5）</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：教育心理学に関する専門的な事柄を理解し、自分の考えと共に説明できる。</p> <p>評価の方法：レポート（70点） 授業中の態度・取り組みの姿勢（30点）</p>					
フィードバックの 方 法	課題回収後に解説を行う。					
時 間 外 の 学 習 について	<p>予習：次回の授業のテーマについて、予め学習しておく。</p> <p>復習：自分なりのまとめのノートを作る。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：特になし。学会誌の論文など、必要な資料はそのつど配布する。</p> <p>参 考 書：授業のなかで適宜紹介する。</p> <p>参 考 資 料 等：授業のなかで適宜紹介する。</p>					
担 当 者 からの メ ッ セ ー ジ						
備 考						

授 業 科 目 名	発達心理学特論	教 員 名	堂 野 佐 俊	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM-5-9007-02300				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	講 義	年次担当	1 年前期		修 了 要 件	
単 位 数	2					
科 目	教科及び教職に関する科目（幼稚園及び小学校）					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	人間の発達・学習に関する原理や要因、発達課題等の理解を深め、各発達段階における諸特徴について、今日的課題へのアプローチとして、家庭・学校・地域に密着した立場から考察する。					
授 業 概 要	乳幼児期から青年期、高齢者までに及ぶ発達のメカニズムに関して、認知や学習の発達領域に重点を置き、発達心理学の観点から理解を深める。特に、学部段階での学問的知識に基づき、生理学的基礎論にも立脚した理論的な考察を中心に、現代的課題を取り上げながら論を進める。展開においては、諸外国の文献をも含めつつ、論理的・科学的に理解を深めるように心がける。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における人間の発達環境とその課題</li> <li>2. 今日的な発達課題の意義ととらえ方</li> <li>3. 子どもの発達と現代的課題</li> <li>4. 青年期の発達と現代的課題</li> <li>5. 成人期・社会における発達心理学的課題</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	学部段階での発達心理学の履修が望ましい。出席して積極的に参加すること。					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の発達の特徴と課題（目標 1）</li> <li>2. 現代社会における人間の発達と環境の問題</li> <li>3. 発達を促進する要因に関する現代的理解</li> <li>4. 今日的発達課題の意義とその内容についての検討（目標 2）</li> <li>5. 発達段階に関する認識と現代化への課題</li> <li>6. 発達過程における個性化と社会化の意義（目標 2）</li> <li>7. 人間発達における初期環境の理解と評価</li> <li>8. 乳幼児期の発達と愛着研究の進展</li> <li>9. 幼児期の自我発達のメカニズムと自己中心性</li> <li>10. 児童期の発達と徒党時代のもたらす意味（目標 3）</li> <li>11. 人間の思考の発達と情緒の統制との関</li> <li>12. 青年期への飛翔と現代社会の複雑・多様</li> <li>13. 少子化時代の心理的離乳と脱衛星化の課題</li> <li>14. 現代社会における発達障害の理解と実践的課題</li> <li>15. 高齢化社会における生活の基盤と自己実現の課題</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	評価の基準：100点満点とし、60点以上を合格とする。 評価の方法：レポート（70%）及び授業中の取り組みの態度（30%）について総合的に評価する。					
フィードバックの 方 法						
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：予め配布された資料（次回講義の為の）に基づいてノートを作成する。 復習：作成済みのノートへの講義中の記入について再度確認・点検し、整理する。					
教材にかかわる 情 報	テキスト：特になし（適宜資料を配付する）。 参 考 書：“The Psychology of Childhood” 1992 Mitchell,P. The Falmer Press 「発達理解の心理学」（堂野・堂野、2009）、その他は、その都度、指示する。 参考資料等：					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	“A man can lead a horse to water, but ten can't make him drink”					
備 考						

授 業 科 目 名	発達臨床心理学演習	教 員 名	堂野 佐俊	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM-5-9008-02300				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	演 習	年次配当	1 年後期		修 了 要 件	
単 位 数	2					
科 目	教科及び教職に関する科目（幼稚園及び小学校）					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	現代社会における人間の適応の問題に焦点を当て、子どもから高齢者まで各発達段階ごとに分析して、家庭・学校・地域に密着した立場から指導や支援のあり方について考察する					
授 業 概 要	激変する現代生活で、ストレスや不安など、適応に困難を示す人間は多くなってきている。こうした問題に焦点を当て、その原理や要因などについて明らかにし、発達段階ごとに視点を設定して対応や方策について論考する。中でも、家庭・学校・地域など身近な場面で、子どもから高齢者・障害者の視点をも含めた生涯発達の観点に立ち、いじめ、不登校、虐待、孤立、適応障害等、臨床心理学的な人間理解の態度を修得することは重要なポイントになる。授業の展開においては、諸外国の文献なども含め、最新のデータ・資料に基づいて論考する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代生活における適応の問題について理解する</li> <li>2. 各発達段階における臨床的視点について理解する。</li> <li>3. 学校における心理臨床的課題について理解する。</li> <li>4. 家庭・社会における心理臨床的問題について理解する。</li> <li>5. ストレス及びストレス対処について理解する。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	特になし。授業に出席して、主体的に参加すること。					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の発達理解と臨床的視点の意義（目標 1）</li> <li>2. 発達臨床心理学的アプローチの立場と発達支援（目標 1）</li> <li>3. 「孤立化社会」と「ストレス社会」の今日的課題（目標 1）</li> <li>4. 現代社会における発達課題の再検討（目標 2）</li> <li>5. 乳幼児期の親子関係と基本的信頼感に関する研究（目標 2）</li> <li>6. 養育態度と欲求不満耐性に関する研究（目標 4）</li> <li>7. 劣等感と自己効力感と適応に関する研究（目標 4）</li> <li>8. 徒党時代と競争社会と仲間の関係に関する研究（目標 3）</li> <li>9. 「いじめ」に関する心理臨床的検討（目標 3）</li> <li>10. 「不登校」に関する心理臨床的検討（目標 3）</li> <li>11. 「虐待」に関する心理臨床的検討（目標 3）</li> <li>12. 「キレル・ムカつく」と対人関係能力の発達課題（目標 4）</li> <li>13. 疾風怒濤の時代の適応と思春期の発達に関する研究（目標 4）</li> <li>14. 現代社会における心理的ストレスに関する研究（目標 5）</li> <li>15. ストレス対処とストレス・マネジメントに関する理解（目標 5）</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：100点満点とし、60点以上を合格とする。</p> <p>評価の方法：レポート（70%）及び授業中の取り組みの態度（30%）について総合的に評価する。</p>					
フィードバックの 方 法						
時 間 外 の 学 習 について	<p>予習：予め配布された資料（次回講義の為の）に基づいてノートを作成する。</p> <p>復習：作成済みのノートへの講義中の記入について再度確認・点検し、整理する。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：特になし。毎回テーマに沿った資料を指示する</p> <p>参 考 書：「現代社会におけるストレスと適応の生涯発達心理学」（堂野佐俊）風間書房 1999</p> <p>参 考 資 料 等：</p>					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	“A man can lead a horse to water, but ten can't make him drink “					
備 考						

授 業 科 目 名	教育臨床心理学特論	教 員 名	名 島 潤 慈	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM-6-9009-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	講 義	年次配当	2 年 前 期		修 了 要 件	
単 位 数	2					
科 目						
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	教育臨床、援助技法、事例検討、学校危機					
授 業 概 要	学校臨床場面において実際に用いられているさまざまな援助技法について学ぶ。また、学校臨床場面における適切な見立てと効果的な支援のあり方について、事例を通して検討する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育臨床心理学とは何かを理解する。</li> <li>2. カウンセラー-クライアント関係のあり方を理解する。</li> <li>3. いろいろな援助技法を体的に理解する。</li> <li>4. いろいろな問題をもつ子どもたちに対する援助のあり方を、具体的な事例を通して理解する。</li> <li>5. 学校コミュニティの危機における、子どもたちへの緊急支援のあり方を理解する。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育臨床心理学の対象・範囲・方法 (目標 1)</li> <li>2. カウンセラー(教師カウンセラー)-クライアント関係 (目標 2)</li> <li>3. 援助技法—マイクロカウンセリング (目標 3)</li> <li>4. 援助技法—プレイセラピー(目標 3)</li> <li>5. 援助技法—自律訓練法・自己催眠 (目標 3)</li> <li>6. 援助技法—漸進的筋弛緩法 (目標 3)</li> <li>7. 援助技法—呼吸法 (目標 3)</li> <li>8. 援助技法—イメージ療法 (イメージ面接を含む) (目標 3)</li> <li>9. 援助技法—絵画療法・箱庭療法 (目標 3)</li> <li>10. 学校臨床場面における事例の検討—自傷行為 (目標4)</li> <li>11. 学校臨床場面における事例の検討—他害行為 (目標 4)</li> <li>12. 学校臨床場面における事例の検討—チック (目標 4)</li> <li>13. 学校臨床場面における事例の検討—不登校 (目標 4)</li> <li>14. 学校危機への緊急支援—大災害に襲われた場合 (目標 5)</li> <li>15. 学校危機への緊急支援—生徒の自殺や校内事故死 (目標 5)</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：教育心理学に関する専門的な事柄を理解し、自分の考えと共に説明できる。</p> <p>評価の方法：レポート (70点) 授業中の態度・取り組みの姿勢 (30点)</p>					
フィードバックの 方 法	課題回収後に解説を行う。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：次回の授業のテーマについて、予め学習しておく。</p> <p>復習：自分なりのまとめのノートを作る。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：特になし。学会誌の論文など、必要な資料はそのつど配布する。</p> <p>参 考 書：授業のなかで適宜紹介する。</p> <p>参 考 資 料 等：授業のなかで適宜紹介する。</p>					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ						
備 考						

授 業 科 目 名	教員のメンタルヘルス特論	教 員 名	名 島 潤 慈	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM-6-9010-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	講 義	年次配当	2 年後期	修 了 要 件	選 択	
単 位 数	2					
科 目						
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	学校教員、メンタルヘルス（精神健康）、ストレス、問題行動、精神疾患、危機、復職支援					
授 業 概 要	学校現場で働く教員にとって、心の健康さを保つことは大変重要である。心の健康さが失われてくると種々の問題行動や症状が頻発し、場合によっては休職や退職に追い込まれてしまう。この授業では、心の健康さを保つための方策を探求する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のメンタルヘルス不調の現状と課題について理解する。</li> <li>2. 教員のストレスと問題行動、精神疾患などについて理解する。</li> <li>3. ストレスマネジメントのやり方を習得する。</li> <li>4. 職場内外の社会資源（医療・相談機関）について理解を深める。</li> <li>5. 復職支援プログラムについて理解する。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のメンタルヘルス不調の現状と課題（目標 1）</li> <li>2. 教員の倫理と問題行動（信用失墜行為）・倫理教育（目標 1, 2）</li> <li>3. 学校におけるストレス—新任教師の場合（目標 2）</li> <li>4. 学校におけるストレス—問題のある生徒・保護者・管理職との関係（目標 2）</li> <li>5. 教員の家庭生活におけるストレス（目標 2）</li> <li>6. 教員の適応障害の問題と対応（目標 2）</li> <li>7. 教員のうつ病の問題と対応（目標 2）</li> <li>8. 教員の自殺の問題と対応（目標 2）</li> <li>9. 教員の心身症の問題と対応（目標 2）</li> <li>10. 教員の中年危機の問題と対応（目標 2）</li> <li>11. セルフケアとストレスマネジメント①（目標 3）</li> <li>12. セルフケアとストレスマネジメント②（目標 3）</li> <li>13. セルフケアとストレスマネジメント③（目標 3）</li> <li>14. 職場内・職場外資源の活用（目標 4）</li> <li>15. 教員の復職支援プログラムの概要（病気休暇取得・休職発令から復職までを含む）（目標 5）</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	評価の基準：教員のメンタルヘルスに関する専門的な事柄を理解し、自分の考えと共に説明できる。 評価の方法：レポート（70点） 授業中の態度・取り組みの姿勢（30点）					
フィードバックの 方 法	課題回収後に解説を行う。					
時 間 外 の 学 習 について	予習：次回の授業のテーマについて、予め学習しておく。 復習：自分なりのまとめのノートを作る。					
教材にかかわる 情 報	テキスト：特になし。学会誌の論文など、必要な資料はそのつど配布する。 参 考 書：文部科学省・教職員のメンタルヘルス対策検討会議（2013）教職員のメンタルヘルス対策について（最終まとめ） 参考資料等：授業のなかで適宜紹介する。					
担 当 者 からの メ ッ セ ー ジ	ストレスマネジメントのやり方（ストレス対処スキル）については実際に練習していただきます。					
備 考						

授 業 科 目 名	人権教育研究	教 員 名	香川 智弘	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM-6-9011-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演習	年次配当	2年後期	修 了 要 件	選 択	
単 位 数	2					
科 目						
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	子どもの人権 いじめ 体罰 虐待					
授 業 概 要	学校現場における児童によるいじめ、教員による体罰、セクハラ、家庭における虐待そして子どもの自殺など子どもの人権を侵害する事例は後を絶たない。このような具体的事例を学生自ら判例や文献などから収集し、ともに分析考察し、その対処法防止法を論理的実践的に研究する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの人権について知る。</li> <li>2. 子どもの人権侵害事例を知る。</li> <li>3. 子どもの人権の防止策対処策を研究する。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本国憲法の目的、基本理念、基本原理 役割 第十章 (目標 1)</li> <li>2. 日本国憲法の人権総則規定 (目標 1)</li> <li>3. 教育基本法 (目標 1)</li> <li>4. 子どもの権利条約 (その1) (目標 1)</li> <li>5. 子どもの権利条約 (その2) (目標 1)</li> <li>6. 事例研究① (目標 1,2,3)</li> <li>7. 事例研究 (目標 1,2,3)</li> <li>8. 事例研究 (目標 1,2,3)</li> <li>9. 事例研究 (目標 1,2,3)</li> <li>10. 事例研究 (目標 1,2,3)</li> <li>11. 事例研究 (目標 1,2,3)</li> <li>12. 事例研究 (目標 1,2,3)</li> <li>13. 事例研究 (目標 1,2,3)</li> <li>14. 文部科学省「人権教育の指導方法等の在り方について (第三次とりまとめ)」をもとに (目標 1,2,3)</li> <li>15. まとめ (目標 1,2,3)</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：授業内容の理解度と授業への取り組みの積極度・真摯度等を評価する。</p> <p>評価の方法：評価基準に基づき総合的に評価する。</p>					
フィードバックの 方 法						
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：参考書をもとに、事例について詳細に情報収集し分析しておく</p> <p>復習：学修した内容をもとに教員の関わり方を考察する</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：香川智弘「憲法講義」</p> <p>参 考 書：「法律・判例で考える生徒指導」学事出版</p> <p>参 考 資 料 等：</p>					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	世の中の動向、ことに子どもに関するニュースに関心をもつ					
備 考						

授 業 科 目 名	福祉・教育特論	教 員 名	佐藤 真澄	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM-6-9012-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	講義	年次配当	2年後期		修 了 要 件	
単 位 数	2					
科 目	教科及び教職に関する科目（幼稚園）					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	社会福祉の思想、理念、制度 福祉教育					
授 業 概 要	社会福祉の思想、理念や制度の変遷について体系的に学ぶ。子どもを取り巻く現状について取り上げ、社会福祉制度の課題や社会福祉実践の取り組みについて討議する。 また、子どもに教育するという立場から、「福祉とは何か」について討議する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の思想、理念、制度の変遷について理解できる。</li> <li>2. 幼児・児童を取り巻く現状について、社会福祉の観点から理解できる。</li> <li>3. ライフステージに応じた社会福祉の課題や社会福祉実践の取り組みについて理解できる。</li> <li>4. 現代社会における福祉課題や求められる支援について、自分の考えを述べることができる。</li> <li>5. 福祉教育において大切にすべきことについて、自分の考えを述べるができる。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション「社会福祉」という考え方-受講前の自分の考えを整理する（目標 4）</li> <li>2. 社会福祉の基礎概念① 社会福祉の基本理念（目標 1）</li> <li>3. 社会福祉の基礎概念② ライフステージと社会福祉（目標 1）</li> <li>4. 社会福祉の基礎概念③ 社会福祉の援助原理と専門性（目標 1）</li> <li>5. 社会福祉の制度① 社会福祉制度の歴史的展開（目標 1）</li> <li>6. 社会福祉の制度② 措置制度から契約制度への転換（目標 1）</li> <li>7. 社会福祉の制度③ 社会福祉の仕組みと運営（目標 1）</li> <li>8. 社会福祉を取り巻く状況① 少子・高齢化/家族機能と社会福祉との関係（目標 2,3）</li> <li>9. 社会福祉を取り巻く状況② 地域社会の機能と地域福祉（目標 2,3）</li> <li>10. 社会福祉を取り巻く状況③ 障害児（者）福祉と特別支援教育（目標 2,3）</li> <li>11. 小括：現代社会における福祉課題と求められる支援のあり方（目標 2,3,4）</li> <li>12. 【演習】子どもに「福祉」を教える - テーマ選定（目標 5）</li> <li>13. 【演習】子どもに「福祉」を教える - 教材作成（目標 5）</li> <li>14. 【演習】子どもに「福祉」を教える - プレゼンテーション（目標 5）</li> <li>15. 総括：福祉教育において大切にすべきこととは（目標 5）</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：社会福祉に関する基礎的な事柄について理解したうえで、その内容を教材化し、説明できる。</p> <p>評価の方法：授業への参加度50% 演習課題50%</p>					
フィードバックの 方 法						
時 間 外 の 学 習 について	<p>予習：毎回の授業時に都度指示する。</p> <p>復習：毎回の授業時に都度指示する。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：都度適宜紹介する。</p> <p>参 考 書：都度適宜紹介する。</p> <p>参考資料等：</p>					
担 当 者 からの メ ッ セ ー ジ						
備 考						

授 業 科 目 名	教育と芸術	教 員 名	河北 邦子	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM-6-9013-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	講義	年次配当	2年後期	修了要件	選択	
単 位 数	2					
科 目						
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	デューイの教育論と芸術論をつなぐ					
授 業 概 要	本授業科目は当面、「デューイは芸術をどのように論じ、芸術のもつ教育力をどのようにとらえているか」という問いをもって、デューイ著・粟田 修訳『経験としての芸術』を中心に、デューイの芸術論・教育論にかかわりのある我が国のいくつかの著作を読み取っていく。また、デューイ芸術論・教育論と音楽教育実践事例をつないで考察することを試みる。					
達 成 目 標	1. デューイの芸術論を理解する。 2. 芸術と教育のかかわりをとらえる視点、問題を把握する。 3. 小学校音楽科授業をデューイの芸術論の観点から分析する。					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	1. 森 昭『経験主義の教育原理』－「経験主義の芸術哲学」（目標 1） 2. 牧野宇一郎『デューイの価値観の研究』－「一つの経験と芸術的価値」（目標 1） 3. 牧野宇一郎『デューイ教育観の研究』－「芸術と教育」（目標 1,2） 4. デューイ著・粟田 修訳『経験としての芸術』－「第1章、第2章」（目標 1） 5. 同 上 書 －「第3章、第4章」（目標 1） 6. 同 上 書 －「第5章、第6章」（目標 1） 7. 同 上 書 －「第7章、第8章」（目標 1） 8. 同 上 書 －「第9章、第10章」（目標 1） 9. 同 上 書 －「第11章、第12章」（目標 1） 10. 同 上 書 －「第13章、第14章」（目標 1） 11. 上野正道『学校の公共性と民主主義』－「美的経験の再構成による教育」（目標 1,2） 12. 小学校音楽教育実践の分析と考察（目標 3） 13. 佐藤 学・今井康雄『子どもたちの想像力を育む』 －「想像力と創造性の教育へ」（目標 1,2） 14. 同 上 書 －「子どもの美的経験の意味」（目標 1,2） 15. 同 上 書 －「第Ⅲ部 アート教育の新展開」（目標 1,2）					
成 績 評 価 基 準	評価の基準：テキスト内容の解釈 評価の方法：発問・応答、レポート					
フィードバックの 方 法						
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：次回のテキスト該当箇所を読む 復習：ノート提出・点検					
教材にかかわる 情 報	テキスト：デューイ著・粟田 修訳『経験としての芸術』見洋書房、上野正道著『学校の公共性と民主主義』東京大学出版会、佐藤 学・今井康雄編著『子どもたちの想像力を育む』東京大学出版会 参 考 書：デューイ・宮原誠一訳『学校と社会』岩波文庫、デューイ・松野安男訳『民主主義と教育』岩波文庫、デューイ・植木 豊訳『公衆とその問題』ハーベスト社 他 参 考 資 料 等：					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ						
備 考						



授 業 科 目 名	特別支援教育特論	教 員 名	宮木 秀雄	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM-6-9014-00000				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	講 義	年次配当	1 年後期		修 了 要 件	
単 位 数	2					
科 目	教科及び教職に関する科目（幼稚園及び小学校）					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	特別支援教育、発達障害、学習面や行動面のアセスメントと支援					
授 業 概 要	本科目では、特に通常の学校における特別支援教育に焦点を当て、その現状や最新の動向を理解するとともに、通常の学級にも在籍しているLDやADHD、高機能自閉症等の発達障害のある幼児児童生徒の特性と支援方法について学ぶ。その上で、具体的な事例を挙げ、幼児児童生徒を支援するために必要な情報を収集するとともに支援方法を検討し、他者と協議しながら個別の指導計画を作成する演習を行う。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 通常の学校における特別支援教育の現状や最新の動向について理解している。</li> <li>2. LDやADHD、高機能自閉症等の発達障害のある幼児児童生徒の特性と支援方法について理解している。</li> <li>3. 必要な情報を収集し、個別の指導計画を作成することができる。</li> <li>4. 他者との協議を通して、幼児児童生徒への支援を考えることができる。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション（目標 1）</li> <li>2. 通常の学校における特別支援教育（目標 1）</li> <li>3. 事例検討① 情報収集と支援方法の検討（目標 4）</li> <li>4. 発達障害のある幼児児童生徒の学習面の困難（目標 2）</li> <li>5. 発達障害のある幼児児童生徒の学習面のアセスメント（目標 2）</li> <li>6. 発達障害のある幼児児童生徒の学習面の支援（目標 2）</li> <li>7. 事例検討② 情報収集と支援方法の検討（目標 4）</li> <li>8. 発達障害のある幼児児童生徒の行動面の困難（目標 2）</li> <li>9. 発達障害のある幼児児童生徒の行動面のアセスメント（目標 2）</li> <li>10. 発達障害のある幼児児童生徒の行動面の支援（目標 2）</li> <li>11. 個別の指導計画の意義と内容（目標 3）</li> <li>12. 事例検討③ 情報収集と支援方法の検討、および個別の指導計画の作成（目標 3,4）</li> <li>13. 事例検討④ 情報収集と支援方法の検討、および個別の指導計画の作成（目標 3,4）</li> <li>14. 通常の学級における授業のユニバーサルデザイン（目標 1）</li> <li>15. インクルーシブ教育と合理的配慮（目標 1）</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	評価の基準： 評価の方法：レポート（50点） 授業中の態度・取り組みの姿勢（50点）					
フィードバックの 方 法						
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習： } 特になし 復習： }					
教材にかかわる 情 報	テキスト：特に使用しない 参 考 書：講義の中で、適宜、参考資料や補足資料を配布する。 参考資料等：					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ						
備 考						

授 業 科 目 名	東アジア文化比較論	教 員 名	福屋 利信 (単独)	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM-5-9015-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	講義	年次配当	1年後期	修 了 要 件	選 択	
単 位 数	2					
科 目						
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	韓国と日本、台湾と日本の文化比較論を中心に講義し、中国・北朝鮮を含めた東アジア文化比較に論を展開していく。					
授 業 概 要	教員の専門分野である音楽社会学（音楽とその社会背景を分析）の研究成果を中心に授業を進めていく。					
達 成 目 標	東アジアにおける日本の位置づけを客観的に捉え、俯瞰的な視点（グローバルな視点）を獲得する。					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	講義形式ではあるが、授業中にディベート、ディスカッションをしてもらうこともある。					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 韓半島分断から朝鮮戦争（ユギオ）へ「イムジン河」の歌詞分析</li> <li>2. 「釜山港へ帰れ」（トラワヨ、プサンハンへ）におけるハングル詞と日本語詞との意味差異</li> <li>3. ソウル・オリンピックと韓国民主化</li> <li>4. 日本における第一次韓国ブーム（韓国野球、韓国歌謡、韓国映画）</li> <li>5. 日本における第二次韓国ブーム（FIFAワールドカップ日韓共同開催の果たしたスポーツ文化的役割）</li> <li>6. 在日韓国人の立場</li> <li>7. 日本のK-POP受容の背景</li> <li>8. J-POPとK-POPの文化比較論</li> <li>9. 反日の韓国に対して、台湾はなぜ親日なのか？</li> <li>10. 日本統治時代の台湾</li> <li>11. 台湾の親日感情醸成に貢献した明治の長州人たち</li> <li>12. 台湾アイデンティティと省籍問題</li> <li>13. 台湾ポップス（TW-POP）の魅力</li> <li>14. 台湾人か中国人か</li> <li>15. 台湾はどこへ向かおうとしているのか</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	評価の方法：最終レポート評価50%、授業へのコミット度評価25%、出席率評価25% 評価の基準：					
フィードバックの 方 法						
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：次回のテキスト該当箇所を読む 復習：ノート提出・点検					
教材にかかわる 情 報	テキスト：福屋利信著『植民地時代から少女時代へ』（太陽出版、2013）、福屋利信著『台湾の表層と深層』（かざひの文庫、2017）。 参 考 書：李栄薫著『反日種族主義』（文藝春秋、2019）、酒井充子『台湾人生』（文藝春秋、2010）。 参考資料等：					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	東アジアを俯瞰すれば、日本がわかる。					
備 考						

授 業 科 目 名	幼児教育特論	教 員 名	松村 納央子	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	必修
ナンバリングコード	UM-5-9016-02000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	講義	年次配当	1 年前期	修 了 要 件	選 択	
単 位 数	2					
科 目	教科及び教職に関する科目（幼稚園）					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	幼稚園教育を支える思想・原理および指導方法に関する専門的な認識の修得					
授 業 概 要	幼児教育（幼稚園）の思想や理念、歴史に関する専門的な知識と方法技術を理解する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育の専門的な知識及び理論、思想・理念・歴史を時代背景とともに関係的に理解する。</li> <li>2. 幼児教育現場での指導をする際の理論や技術を支える指導原則や指導原理を理解する。</li> <li>3. 幼稚園教育要領の変遷と小学校教育との関係を理解し、現実の諸問題への対応力を養う。</li> <li>4. 幼稚園のアプローチカリキュラムから小学校のスタートカリキュラムの具体例を検討考察する。</li> <li>5. 環境を通して、体験を通して、生活を通してなどの「間接教育」の原則を習得する。</li> <li>6. 各自でA4ノートを準備して、講義内容のメモ、要項・資料の整理、自主研究を進める。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コメニウス、ベスタロッチー、フレーベルの幼児教育の思想と理念（オリ）。（目標 1.5）</li> <li>2. 明治草創期の幼稚園（学制中の幼稚園、安栖里村龍心寺幼稚園）。（目標 1）</li> <li>3. 東京女子師範学校附属幼稚園（開園と保育規則、幼稚園の目的、保育の方法）。（目標 1）</li> <li>4. 東京女子師範学校附属幼稚園の保育の実際。（目標 1）</li> <li>5. 倉橋惣三の幼児教育方法（「森の幼稚園」中の間接教育論）。（目標 1.2,3）</li> <li>6. 幼稚園令にみる戦前の幼稚園教育。（目標 1）</li> <li>7. 戦後幼稚園の歩みから、「第3の教育改革」の幼稚園。（目標 1.4）</li> <li>8. 1989年幼稚園教育要領の「環境を通して」の教育方法（目標 1.4）</li> <li>9. 現行幼稚園教育要領における幼稚園の内容と方法技術。（目標 2.4）</li> <li>10. 乳幼児の発達と基本的な生活習慣（家庭と幼稚園の連携）。（目標 3）</li> <li>11. 自立の諸相（身体自立・身辺自立から精神的・経済的自立へ）。（目標 3）</li> <li>12. 環境構成の構想と保育案の書き方。（目標 3）</li> <li>13. 幼稚園から小学校へ（3歳・就学時健診、1日入学）。（目標 3）</li> <li>14. 卒園式から入学までの15日間（スタート・カリキュラムの前に）。（目標 4）</li> <li>15. 幼稚園年長児の体験学習（S児の文字学習）、小学生の体験学習。（目標 3,4）</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：幼児教育に関する専門的な事柄を理解し、自分の考えとともに説明できる。 A4判ノートを準備して、配布する資料（史料）について調査する。 途中、適宜、ノートのチェックを行い、評価の対象にする。</p> <p>評価の方法：講義での発表討論（20%）、自主調査活動（40%）、ノート（40%）。</p>					
フィードバックの 方 法						
時 間 外 の 学 習 について	<p>予習：事前に提示した資料（史料）を調べて説明・意見発表・討論などアクティブな学修を目ざす。 復習：発展的な課題について調査する。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：①栗原『『間接教育の構造—倉橋惣三の幼児教育方法』平成6年、ぎょうせい、②冊子『幼稚園から小学校へ（講義補充資料）』2012。テキスト等は講義の中で適宜配布する。 参 考 書：『日本幼稚園史』『幼稚園教育百年史』『日本の幼稚園』から、講義資料を作成・配布する。 参考資料等：</p>					
担 当 者 からの メ ッ セ ー ジ	<p>講義外での自主的な調査研究活動も進めてほしい。ノートおよび資料整理等も重要な評価対象とする。</p>					
備 考						

授 業 科 目 名	小学校授業実践特論	教 員 名		免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	必修
ナンバリングコード	UM-5-9017-00300				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	講義	年次担当	1年後期	修 了 要 件		選択
単 位 数	2					
科 目	教科及び教職に関する科目 ((小学校))					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	児童が主体的に活動して「わかる・できる」アクティブラーニング授業の理論と指導の実際					
授 業 概 要	小学校の13種類の授業に共通する学習規律の理解から出発して、授業の実践的指導力を修得する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 我が国の小学校の教育課程の特質と教師の役割を認識し、授業指導力向上への自覚を持つ。</li> <li>2. 入門期の学級指導と授業指導の実際を知り、スタートカリキュラムの指導も体得する。</li> <li>3. 国語の入門指導、「ごんぎつね」授業を事例に、わかる授業の指導方法の実際を体得する。</li> <li>4. ビデオ視聴とレポート、協議を通して、授業研究のあり方と方法、参加の仕方等を知る。</li> <li>5. 各自でA4ノートを準備して、講義内容のメモ、資料の整理、発展的な自主研究を進める。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小学校教育の中の授業 (13種類の授業と我が国の教育課程の特質)、オリ。(目標 1,5)</li> <li>2. 入学式および最初の学級指導の実際 (班編成、教師の話し方等)。(目標 2)</li> <li>3. 学年始めの学級指導 (登下校・安全指導、朝会・終会等の指導) (目標 2)</li> <li>4. 学年始めの学級指導 (班活動、学習準備、授業始まり、日直、給食の指導等)。(目標 2)</li> <li>5. 学年始めの授業指導 (スタートカリキュラムの構想と実践)。(目標 2)</li> <li>6. 入門期の国語指導①教科書の音読、着席の仕方の指導等)。(目標 3)</li> <li>7. 入門期の国語指導②一斉音読、発表の仕方、聞き方の指導等)。(目標 3)</li> <li>8. 入門期の算数指導 (発表の仕方、7つのレベル。授業から家庭学習へ)。(目標 2)</li> <li>9. わかる授業、できる授業の理論 (「わかる」とは、わかる授業の構造)。(目標 2,3)</li> <li>10. わかる授業を実現するための3つの指導 (内容・方法・規律の指導)。(目標 3)</li> <li>11. 現行学習指導要領の求める授業像。(目標 1,3)</li> <li>12. 騒がしい学級の授業指導 (学習規律の指導の原則)。(目標 1,2)</li> <li>13. 小4国語「ごんぎつね」の教材解釈と指導案の作成。(目標 1,3,4)</li> <li>14. 栗原授業「ごんぎつね」ビデオの視聴とレポート。(目標 3,4)</li> <li>15. 「ごんぎつね」視聴後のレポート発表と討論、まとめ。(目標 3,4,1)</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：小学校授業の指導と実践に関する専門的な理解とともに、自分の考えを説明できる。 専用のA4判ファイルやノートを準備して、配布する資料 (史料) について調査する。 途中、適宜、ファイルやノートのチェックを行い、評価の対象にする。</p> <p>評価の方法：講義での発表討論 (20%)、自主調査活動 (40%)、ノート研究 (40%)</p>					
フィードバックの 方 法						
時 間 外 の 学 習 について	<p>予習：事前に提示した資料 (史料) を調べて説明や意見発表をする。</p> <p>復習：発展的な課題について調査する。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：①栗原『ドキュメントわかる授業の指導』、②栗原『学習規律を育てる』。テキストは講義の中で配布する。</p> <p>参 考 書：授業実践に関する栗原の文献は、本学図書室開架図書として、ほぼ全部揃えてある。</p> <p>参考資料等：</p>					
担 当 者 からの メ ッ セ ー ジ	講義外での自主的な調査研究活動も進めてほしい。ノートおよび資料整理等も重要な評価対象とする。					
備 考						

授 業 科 目 名	小学校授業実践特論演習	教 員 名		免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM-6-9018-00300				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演 習	年次配当	2 年前期		修 了 要 件	
単 位 数	2				選 択	
科 目	教科及び教職に関する科目（小学校）					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	小学校授業に関する実践的指導力の向上のための専門的な理論と方法の修得					
授 業 概 要	学習の内容・方法・規律の組織的な指導により、児童の主体的な学習を実現する方法を体得する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小学校現場における不成立の授業や優れた授業の実態を知り、実践的指導力の修得を目指す。</li> <li>2. 授業における内容・方法・規律の指導の必要性と方法を理論的に学ぶ。</li> <li>3. アクティブラーニングの構造と指導の実際を検討する。</li> <li>4. 小学校現場での授業研究会に参加して教材解釈・指導案づくり・協議の実際を体得する。</li> <li>5. 優れた授業ビデオの視聴と検討により、授業研究と授業指導の実際を修得する。</li> <li>6. 各自でA4ノートを準備して、演習内容の記録、資料整理、発展的な研究活動を進める。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分自身の小中学校をふり返り、授業不成立体験等を話し合い、考察する（オリ）。（目標 1,5）</li> <li>2. 騒がしい学級、荒れる学級、崩壊学級など、授業不成立の実態を知る。（目標 1,2）</li> <li>3. 小学校現場における授業の実態（7つの授業を参観して）。（目標 1,2）</li> <li>4. 小学校教師からの質問とアドバイス（低学年の場合）。（目標 1,2）</li> <li>5. 小学校教師からの質問とアドバイス（高学年の場合）（目標 1,2）</li> <li>6. わかる授業・アクティブラーニングの構造と指導。（目標 2）</li> <li>7. ～9. 小学校現場での授業研究会に参加する。（目標 3,4,5） 教材解釈、指導案の検討、授業の参観（授業ビデオの撮影）、 協議会への参加、栗原の指導講話を聞く</li> <li>10. ～11. ビデオによる撮影、授業記録の作成と検討。（目標 3,4,5）</li> <li>11. 学習規律の重要性と指導、学習の内容・方法の指導（教材「川とノリオ」）。（目標 1,2）</li> <li>12. 優れた学習規律を体得した学級の授業の実態（授業ビデオの視聴とレポート）（目標 3,4）</li> <li>13. レポート「音楽授業に学ぶこと」を発表し合い、討論する。（目標 3,4）</li> <li>14. 学習規律アンケートの方法と実態。（目標 1,2）</li> <li>15. 授業における教師の指導のあり方、指導方法（まとめ）</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：授業指導の理論と実践に関する専門的な事柄を理解し、自分の考えと共に説明できる。 専用のA4判ファイルやノートを準備して、配布する資料（史料）について調査する。 途中、適宜、ファイルやノートのチェックを行い、評価の対象にする。</p> <p>評価の方法：演習活動での討論（20%）、自主的調査活動（40%）、ノート活動（40%）</p>					
フィードバックの 方 法						
時 間 外 の 学 習 について	<p>予習：事前に提示した資料（史料）を調べて説明や意見発表をする。</p> <p>復習：発展的な課題について調査する。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：栗原『学習規律を育てる』2007。講義の中で配布する。</p> <p>参 考 書：学芸大図書館の授業実践文献を、実際に説明する。</p> <p>参考資料等：</p>					
担 当 者 からの メ ッ セ ー ジ	講義外での自主的な調査研究活動も進めてほしい。ノートおよび資料整理等も重要な評価対象とする。					
備 考						



授 業 科 目 名	表現活動指導演習	教 員 名	河北 邦子	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM-6-9020-02300				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	演 習	年次配当	2 年前期		修 了 要 件	
単 位 数	2					
科 目	教科及び教職に関する科目（幼稚園及び小学校）					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	音楽科の教科特性、目標、指導内容、表現領域、鑑賞領域、授業記録分析					
授 業 概 要	幼児歌曲・小学校音楽科教材の楽曲を、音楽的側面と言語的側面から分析し、楽曲のもつ特徴を把握する。教育者としての表現力を養うと共に、子どもの発達を考慮しながら子どもが楽しむ要素について考える。初等教育現場の授業記録の分析を行い、教師の表現が子どもに与える影響、子ども同士の影響を理解し、表現・鑑賞領域の活動への展開方法について研究する。デジタル教科書の使い方を知ると共に、子どもに与える影響について分析する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音楽教材を音楽的側面、言語的側面から歌唱教材を分析する力量を身につける。</li> <li>2. 楽曲の特徴を活かした表現について考え、表現力を身につける。</li> <li>3. 授業記録を通して、教師の表現（言語、歌唱・器楽・ピアノ伴奏等の音楽、身体、指揮、板書等）について分析研究する。</li> <li>4. デジタル教科書の活用の有効性を考える。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	授業内容に必要な楽器（リコーダー、鍵盤ハーモニカ等）を持参すること。					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、楽曲を構成する要素を分析する意義について。 幼児歌曲・小学校音楽科教材を拍子、速度の側面から分析し表現する。（目標 1,2）</li> <li>2. 幼児歌曲・小学校音楽科教材をリズムの側面から分析し表現する。（目標 1,2）</li> <li>3. 幼児歌曲・小学校音楽科教材をメロディーの側面から分析し表現する。（目標 1,2）</li> <li>4. 幼児歌曲・小学校音楽科教材を形式等の側面から分析し表現する。（目標 1,2）</li> <li>5. 幼児歌曲・小学校音楽科教材を歌詞の側面から分析し表現する。（目標 1,2）</li> <li>6. 歌唱教材を表現すると共に楽曲分析し、授業展開の在り方を考える。（目標 1,2）</li> <li>7. 歌唱教材の授業記録を、グループワークを通して分析する。（目標 3）</li> <li>8. 器楽教材を表現すると共に楽曲分析し、授業展開の在り方を考える。（目標 1,2）</li> <li>9. 器楽教材の授業記録を、グループワークを通して分析する。（目標 3）</li> <li>10. 音楽づくり教材を実践し、授業展開の在り方を考える。（目標 1,2）</li> <li>11. 音楽づくり教材の授業記録を、グループワークを通して分析する。（目標 3）</li> <li>12. 鑑賞教材を実践し、授業展開の在り方を考える。（目標 1,2）</li> <li>13. 鑑賞教材の授業記録を、グループワークを通して分析する。（目標 3）</li> <li>14. デジタル教科書の使い方を、実践を通して学ぶと共に有用性について考える。（目標 4）</li> <li>15. デジタル教科書を用いて実践する。授業の総括。（目標 1,2,3,4）レポート課題の提示。</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：知識の理解、獲得、思考・判断を通しての学び、及び授業内容への関心・意欲、態度、技能・表現を評価する。</p> <p>評価の方法：授業中の取り組み（配点70%） 実践レポートの成果（配点30%）</p>					
フィードバックの 方 法						
時 間 外 の 学 習 について	<p>予習：次回の授業のテーマについて、予め学習しておく。</p> <p>復習：毎時間の演習を復習する。不明な点は質問すること。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：『幼稚園・保育所・家庭で楽しくうたあそび123』河北邦子/坂本久美子編著 ミネルヴァ書房出版（2017）、「小学生の音楽1～6年」教育芸術社、指導者用音楽デジタル教科書「小学生の音楽1～6」教育芸術社DVD-ROM版、授業の中で適宜プリント資料を配付する。</p> <p>参 考 書：『経験としての芸術』J.Dewey、他</p>					
担 当 者 からの メ ッ セ ー ジ	教育現場のデータを用い、また歌唱や器楽、創作活動などの演習を伴いながら、講義を進めます。					
備 考						

授 業 科 目 名	歌唱表現特別演習	教 員 名	坂本久美子	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM-5-9021-02300				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	演 習	年次配当	1 年後期		修 了 要 件	
単 位 数	2					
科 目	教科及び教職に関する科目（幼稚園及び小学校）					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	発声・歌い方・日本語の発音・多彩な歌・イメージ・教材研究					
授 業 概 要	様々な歌唱教材について、文献をもとにその曲が生まれた時代背景や文化的側面を知り、言葉や音楽の分析を通してその曲への理解を深める。また、それらの歌唱活動を通して、個人の歌唱力の向上を目指すとともに、教育・保育現場での活用法について考える。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 時代背景や文化的に成り立ちの異なる、幅広い歌唱教材を知る。</li> <li>2. 歌唱教材の特徴を、言葉や音楽の面から捉える。</li> <li>3. 歌の特色を活かす発声や歌唱表現を考える。</li> <li>4. 保育・教育現場での歌唱教材の活用法を知る。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歌唱における自己課題の分析（目標 3）</li> <li>2. 基礎的な発声法（目標 3）</li> <li>3. 唱歌に関する研究（目標 1,4）</li> <li>4. 唱歌の歌唱実践（日本語の発音と歌唱法）（目標 2,3）</li> <li>5. 童謡に関する研究（目標 1,4）</li> <li>6. 童謡の歌唱実践（郷土の詩人の詩による子どもの歌）（目標 2,3）</li> <li>7. 日本の歌に関する研究（目標 1,2）</li> <li>8. 世界の歌に関する研究（目標 1,2）</li> <li>9. 歌唱と身体表現に関する研究（目標 1,3）</li> <li>10. 音楽物語の創作：構成（目標 2,4）</li> <li>11. 音楽物語の創作：選曲（目標 1,2）</li> <li>12. 音楽物語の創作：朗読（目標 3）</li> <li>13. 音楽物語の創作：場面と歌唱表現（目標 2,3）</li> <li>14. 音楽物語の創作：心情と歌唱表現（目標 2,3）</li> <li>15. 音楽物語の発表とレポート作成（目標 2,3）</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：幅広い分野の歌唱教材の基礎的な理解と、それぞれにふさわしい初歩的な歌唱表現ができる</p> <p>評価の方法：歌唱（60%）、レポート（20%）、授業への取り組み（20%）</p>					
フィードバックの 方 法	歌唱の発表後、講評を行う。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：様々な分野の歌について関心を持ち、調べたり歌ったりしておく</p> <p>復習：既習の歌は歌えるようにしておく</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：適宜プリント配布</p> <p>参 考 書：</p> <p>参考資料等：バーバラ・コナブル著 『音楽家なら誰でも知っておきたい呼吸のこと』（誠信書房）</p> <p>服部公一著 『歌ではじまる幼児教育』（チャイルド本社）</p>					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	日頃から積極的に歌うことを心掛け、ジャンルを問わず歌に興味を持ってほしいと思います。					
備 考						



授 業 科 目 名	鍵盤表現特別演習	教 員 名	本廣 明美	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM-5-9022-02300				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	演 習	年次配当	1 年前期		修 了 要 件	
単 位 数	2					
科 目	教科及び教職に関する科目（幼稚園及び小学校）					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	ピアノ演奏、イメージの形成、自己表現力					
授 業 概 要	鍵盤表現についての幅広い知識や奏法及び表現法を学ぶ。ピアノ曲と演奏法について、「音高」「速さ」「強弱」「リズム」「奏法」などに視点を持ち、イメージの形成と表現の関係性を分析し考究する。そしてそれらを、対象である子どもの成長発達を踏まえ、興味・関心を持たせたいピアノ曲の演奏や表現に生かすことで、ピアノの技術と豊かな表現力の向上を目指す。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 鍵盤表現についての幅広い知識や奏法を知る。</li> <li>2. ピアノ曲の歴史を理解する</li> <li>3. イメージの形成と表現の関係性を理解する。</li> <li>4. 豊かなピアノの演奏技術を習得する。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ピアノ表現の知識と奏法（目標 1）</li> <li>2. ピアノ曲の歴史（作曲家と作品 ロマン派以前）（目標 1,2）</li> <li>3. ピアノ曲の歴史（作曲家と作品 近・現代）（目標 1,2）</li> <li>4. さまざまな様式におけるピアノ表現（目標 1,2）</li> <li>5. さまざまな形式におけるピアノ表現（目標 1,2）</li> <li>6. ジャンル別におけるピアノ表現（目標 1,2）</li> <li>7. イメージの弁別法とイメージの形成の仕方（目標 3）</li> <li>8. イメージと鍵盤表現との関連（目標 3）</li> <li>9. ピアノ曲と鍵盤表現（動きを表わす曲）（目標 3,4）</li> <li>10. ピアノ曲と鍵盤表現（動物・乗り物等を表わす曲）（目標 3,4）</li> <li>11. ピアノ曲と鍵盤表現（感情を表わす曲）（目標 3,4）</li> <li>12. ピアノ曲と鍵盤表現（情景描写を表わす曲）（目標 3,4）</li> <li>13. ピアノ曲と鍵盤表現（四季を表わす曲）（目標 3,4）</li> <li>14. ピアノ演奏と曲のプレゼンテーションの練習（目標 1,2,3,4）</li> <li>15. ピアノ演奏発表と曲のプレゼンテーション（目標 1,2,3,4）</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：達成目標の基本的な事柄を理解し、自ら演奏技能を高め習得することができる。</p> <p>評価の方法：ピアノ演奏（60%） 曲のプレゼンテーション（20%） 授業への取り組みの態度（20%）</p>					
フィードバックの 方 法	発表の後のコメントを参考に、問題解決に取り組むこと。					
時 間 外 の 学 習 について	<p>予習：授業で学習するピアノ曲について調べ、練習をする。</p> <p>復習：日々、ピアノ練習をする。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：共著：本廣明美 加藤照恵 「保育の現場で聴かせたい ピアノ名曲でこどもと遊ぼう」 （ドレミ楽譜出版社）、適宜プリントを配布</p> <p>参 考 書： 参 考 資 料 等：</p>					
担 当 者 からの メ ッ セ ー ジ	弾く練習だけでなく、その曲の背景や作曲者の思いなども、自主的に文献研究することで、演奏能力を高めてほしい。					
備 考						

授 業 科 目 名	造形表現特別演習	教 員 名	井本 勝美	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM-6-9023-02300				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	演 習	年次配当	2 年前期		修 了 要 件	
単 位 数	2					
科 目	教科及び教職に関する科目（幼稚園及び小学校）					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	出身県内美術工芸品や児童・学校・地域等の実態をもとにした題材開発並びに研究成果の発表					
授 業 概 要	題材開発のための調査・研究とそれに基づく試作や指導計画・指導案作成と研究成果の発表					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 美術工芸品や児童作品の色彩や形、構成など芸術表現・造形表現について調査・分析できる。</li> <li>2. 児童・学校・地域性等の実態をもとにオリジナル題材を開発することができる。</li> <li>3. 開発題材にかかわる指導計画や指導案等を考案することができる。</li> <li>4. 自己課題をもとに一連の調査・研究の成果をまとめ、発表することができる。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	「造形実習」の単位を取得済みの者					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業説明をもとにした自己課題の設定（目標 1）</li> <li>2. 自己課題に基づく研究計画の立案（目標 1）</li> <li>3. 実態調査 1（出身県の美術工芸品・民芸品等の調査・分析とまとめ）（目標 1）</li> <li>4. 実態調査 2（山口県内の小学校児童の造形作品の調査・分析とまとめ）（目標 1）</li> <li>5. 調査結果に基づく題材開発 1（構想）（目標 2）</li> <li>6. 調査結果に基づく題材開発 2（試作）（目標 2）</li> <li>7. 試作品の検討とまとめ（目標 2）</li> <li>8. 開発題材にかかわる指導計画立案（目標 3）</li> <li>9. 開発題材にかかわる指導案作成（目標 3）</li> <li>10. 調査研究の成果のまとめ 1（開発題材にかかる制作物のまとめ）（目標 3）</li> <li>11. 調査研究の成果のまとめ 2（開発題材にかかる文書のまとめ）（目標 3）</li> <li>12. 研究成果の発表準備 1（パネル表示）（目標 4）</li> <li>13. 研究成果の発表準備 2（試作品等モデルの制作）（目標 4）</li> <li>14. 研究成果の発表（目標 4）</li> <li>15. 研究成果のまとめと評価（目標 4）</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：児童・学校・地域の実態調査に基づく教材研究により、新たな題材を開発することができる。</p> <p>評価の方法：調査・研究・発表内容50%、制作パネル、試作品・指導案30%、研究意欲・態度20%の判定により評価</p>					
フィードバックの 方 法	研究テーマ、調査方法・発表内容をはじめ、制作パネル、試作品、指導案等、その都度指導助言を行う。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：自己課題に基づく次時内容の確認と構想、資料や材料・用具の確認と準備 各回30分程度 復習：受講内容のまとめと資料の整理、未完成箇所の補完 各回30分程度					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：収集資料と自作資料、県内の美術品・伝統工芸品等に係わる資料 「色・イメージ・構成」寺門保夫・田口敦子・阿部隆夫（技術シリーズ別冊アトリエ） 他 適宜紹介</p> <p>参 考 書： 参 考 資 料 等：</p>					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	題材開発のための手順・方法がわかり、オリジナル題材の開発能力を身につけることができる。					
備 考						

授 業 科 目 名	わらべうたの研究	教 員 名	河北 邦子	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM-6-9024-02300				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	演 習	年次配当	2年後期		修 了 要 件	
単 位 数	2					
科 目	教科及び教職に関する科目（幼稚園及び小学校）					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	伝承、伝播、うた、あそび、ことば、地域性、わらべうたの種類、教材化					
授 業 概 要	わらべうたについて、講義・文献研究、及び演習を通して学ぶ。子どもの生活とわらべうた遊び、また子どもの発達との関連について、より多くのわらべうたに接しながら、保育・教育的意義の側面からわらべうたあそびを捉える。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. わらべうたの伝承・伝播の特徴を事例により理解する。</li> <li>2. わらべうたを音楽と言葉の側面から分析することで地域性・時代性について考察する。</li> <li>3. 子どもの発達とわらべうたの遊び性の関連について考える。</li> <li>4. 日本伝統音楽の音組織によることを理解する。</li> <li>5. わらべうたの教材化について考える。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	活動できる服装、靴で履修すること。					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概要と特徴 わらべうたの成立、わらべうたの要素（目標 1）</li> <li>2. 伝承について、うた・ことば・あそびを比較（目標 1,2）</li> <li>3. 伝播について1, うた・ことば・あそびを比較（目標 1,2）</li> <li>4. 伝播について2, 事例を比較研究し地域性について考える（目標 1,2）</li> <li>5. わらべうたあそびと子どもの発達1 あそばせうた（目標 3）</li> <li>6. わらべうたあそびと子どもの発達2 あそびうた（目標 3）</li> <li>7. わらべうたあそびと子どもの発達3（感覚器官・運動能力・手行為）（目標 3）</li> <li>8. わらべうたあそびと子どもの発達4（言語能力・音楽能力・社会性）（目標 3）</li> <li>9. 音楽的特徴1, 拍・リズム（目標 4）</li> <li>10. 海外の伝承あそびと教育の関わり（目標 4,5）</li> <li>11. 日本の伝承あそびの教育的意義（目標 4,5）</li> <li>12. わらべうたの教材化について（目標 4,5）</li> <li>13. わらべうたの教材化演習1, 指導計画（目標 4,5）</li> <li>14. わらべうたの教材化演習2, 模擬実践（目標 4,5）</li> <li>15. わらべうたについてのまとめ</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：わらべうたのもつ教材としての意義を理解し、教育・保育の場で活かす具体的な方法を考えることができる。</p> <p>評価の方法：授業への取り組みの姿勢（30%）、課題の発表（70%）。</p>					
フィードバックの 方 法						
時 間 外 の 学 習 について	<p>予習：次回の授業のテーマについて、予め学習しておく。</p> <p>復習：毎時間の演習を復習する。不明な点は質問すること。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：『保育者・教育者のための わらべうたあそび』河北邦子、適宜プリント配布</p> <p>参 考 書：『日本伝統音楽の研究』『日本伝統音楽の研究2』小泉文夫、『近世童謡童遊集』尾原昭夫、『わらべうたであそぼう』（年少・年中・年長編）（コダーイ芸術教育研究著）、『山口のわらべうた』内田伸・河北邦子著 日本のわらべうた全集1～27巻 浅野建二 平井康三郎 後藤捷一 監修、『日本伝統音楽の授業をデザインする』小島律子 暁教育図書 参考資料等：</p>					
担 当 者 からの メ ッ セ ー ジ	演習を伴うので、動くことができる服装と靴で授業に参加すること。					
備 考						

授 業 科 目 名	郷土の美術研究	教 員 名	武田 雅行	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM-6-9025-02300				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	演 習	年次配当	2年後期		修 了 要 件	
単 位 数	2					
科 目	教科及び教職に関する科目（幼稚園及び小学校）					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	鑑賞、地域文化、郷土の美術、美術教育、調査、研究、技法、工作					
授 業 概 要	調査・研究に当たっては、事前学習の後、地域の美術館や博物館に収蔵されている各ジャンルの優れた美術作品を鑑賞する機会を通じて、各種資料や情報の収集を行い、その考察の成果を含めて研究ファイルとしてまとめる。また、造形表現に欠かせない要素である色彩・形・構成の重要性に常に立ち返り、美術分野における地域文化の専門的知識を身につけた上で、子どもと心を通わせる美術的側面からの「おもちゃ作り」や「絵手紙作成」の演習等も行い、美術と子どもとの関わりや、造形表現が地域や家庭、教育現場でどのように活かせるかを考察する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的郷土の美術作家について説明できる。</li> <li>2. 優れた作品を生み出す作家の生き様を通して感性を育むことの大切さに気づく。</li> <li>3. 色彩や形などの芸術表現・技法について分析できる。</li> <li>4. 研究や考察の経験を通して自らの教育実践に応用できる。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入 山口県美術・授業計画提示（目標 1,2）</li> <li>2. 山口県の日本画 文献・スライド・ビデオ等による事前学習（目標 1,2）</li> <li>3. 毛利博物館見学（目標 1,2,3）</li> <li>4. 雪舟および雲谷派の作家（目標 1,2）</li> <li>5. 研究ファイル作成 資料の収集と考察（目標 1,2,3）</li> <li>6. 山口県の洋画・彫刻 文献等による事前学習（目標 1,2）</li> <li>7. 山口県立美術館見学（目標 1,2,3）</li> <li>8. 香月美術館見学（目標 1,2,3）</li> <li>9. 研究ファイル作成 資料の収集と考察（目標 1,2,3）</li> <li>10. 山口県の工芸 文献等による事前学習（目標 1,2）</li> <li>11. 萩浦上記念館見学（目標 1,2,3）</li> <li>12. 工作 ①身近な廃材を使用してのおもちゃ制作（目標 4）</li> <li>13. 工作 ②前回の続き（目標 4）</li> <li>14. 絵手紙制作（目標 4）</li> <li>15. 研究ファイル作成 資料の収集と考察及びまとめ（目標 1,2,3,4）</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：郷土の美術や作家について理解し、説明できる。</p> <p>評価の方法：提出 研究ファイル及び作品提出（50%）。 試験による評価（30%）。 授業への取り組みの態度（20%）。</p>					
フィードバックの 方 法	作成した研究ファイルを基に口頭発表することで、考察や知識を自分のものとする。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：特に求めない</p> <p>復習：次回までの課題を各自設定して調べておく</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：授業の中で適宜資料を配布する</p> <p>参 考 書：「山口県の美術」編集：榎本徹 監修：河野良輔（思文閣出版）郷土史「防長の美術と文化」全2巻（学研）「香月泰男展図録」編集：山口県立美術館（艸藝社）ほか 参考資料等：</p>					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	学外に出て、実物に触れる機会を多くもつので、集合時間等厳守すること。					
備 考	学外の美術館見学については内容により予定を変更する場合がある。					

授 業 科 目 名	第二言語習得研究	教 員 名	岩中 貴裕	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM-5-9026-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演 習	年次配当	1 年前期		修 了 要 件	
単 位 数	2					
科 目	教科及び教職に関する科目 (小学校)					
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	子どもの言語習得、気づき、理解、内在化、統合、インタラクション、意味交渉					
授 業 概 要	第二言語習得における認知プロセス (気づき、理解、内在化、統合)、インタラクション、意味交渉に焦点を当て、当該分野における最新の研究動向を理解し、その研究成果を子どもに英語を指導する際にどのように応用するかについて検討する。授業は発表と発表内容に基づいた話し合いを中心に行う。他者と協力しながら子どもの中間言語の発達を促す授業活動を立案する演習を行う。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第二言語習得研究の2つのアプローチについて説明することができる。</li> <li>2. 第二言語習得研究の研究動向について理解している。</li> <li>3. 第二言語習得のプロセスについて説明することができる。</li> <li>4. 第二言語習得研究の研究成果を考慮した授業活動を立案することができる。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	受講前にLTD(Learning through Discussion) に関連する資料に目を通しておくことが望ましい。分からない場合は授業担当者に相談すること。					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション (目標 1)</li> <li>2 学問分野としての第二言語習得研究 (目標 1,2)</li> <li>3 第二言語習得のプロセス (目標 3)</li> <li>4 気づき仮説 (目標 2)</li> <li>5 インプット仮説 (目標 2)</li> <li>6 アウトプット仮説 (目標 2)</li> <li>7 インタラクション仮説 (目標 2)</li> <li>8 内容言語統合型学習 (目標 2)</li> <li>9 多重知能理論 (目標 2)</li> <li>10 音韻レベルの処理の自動化を促す授業活動 (目標 4)</li> <li>11 意味交渉を伴う授業活動 (目標 4)</li> <li>12 認知比較 (Cognitive Comparison) を引き起こす授業活動 (目標 4)</li> <li>13 アウトプットの指導 (目標 4)</li> <li>14 コミュニケーション方略の指導 (目標 4)</li> <li>15 コミュニケーション活動の重要性 (目標 1,2,3,4)</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	評価の基準：授業内でのプレゼンテーションとディスカッションにおける積極性 評価の方法：レポート (40%) プレゼンテーション (40%) 授業への貢献 (20%)					
フィードバックの 方 法	レポート等は授業担当者のコメントを添えて返却します。					
時 間 外 の 学 習 について	予習：学習課題を読み予習ノートを作成しておくこと。 復習：授業内で授業後の課題が指示されます。復習は他の受講生との協働作業になります。					
教材にかかわる 情 報	学術誌等で公開されている論文を配布する。配付資料の30%程度は英語の論文を使用する。					
担 当 者 からの メ ッ セ ー ジ						
備 考						

授 業 科 目 名	教育情報科学特論	教 員 名	三池 秀敏	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM-5-9027-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	講義	年次配当	1 年前期	修 了 要 件	選 択	
単 位 数	2					
科 目						
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	教育技術、情報科学、脳科学、データサイエンス、ニューラルネットワーク、視覚心理、A I（人工知能）					
授 業 概 要	教育現場で必要な情報処理論・技術の基本を確認するとともに、データ活用能力の向上のためのデータサイエンスや人工知能（A I）、更には最先端の脳科学（視覚心理、意識を含む）や3DCG（3次元コンピュータグラフィックス）についても学び、情報科学技術を教育現場や社会で活用するための方策を探求する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育技術としての情報処理論・技術を再確認する。</li> <li>2. データ活用能力の向上のため、データサイエンスやA Iの基本を学び、データ処理の実践課題を解決する。</li> <li>3. 最先端の脳科学や3DCG技術を学び、情報科学技術を活用する方策を理解し発案する。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義内容の説明及び情報科学基礎論Ⅰ（2進・10進・16進変換、論理演算）（目標1）</li> <li>2. 情報科学基礎論Ⅱ（情報量と情報エントロピー）＋調査課題Ⅰ（目標1）</li> <li>3. 情報科学基礎論Ⅲ（データの生成、処理・分析：平均・分散・ヒストグラム）＋調査課題Ⅱ（目標1,2）</li> <li>4. 情報科学基礎論Ⅳ（時系列データ処理：スペクトル解析）＋調査課題Ⅲ（目標1,2）</li> <li>5. 画像データ（2次元）の処理Ⅰ（画像強調・二値化）＋調査課題Ⅳ（目標2）</li> <li>6. 画像データ（2次元）の処理Ⅱ（フィルタリング）＋調査課題Ⅴ（目標2）</li> <li>7. 動画データ（3次元）の処理Ⅰ（オプティカルフロー）＋調査課題Ⅵ（目標2）</li> <li>8. 動画データ（3次元）の処理Ⅱ（空間フィルタ）＋調査課題Ⅶ（目標2）</li> <li>9. 調査課題のプレゼンテーション&amp;質疑応答Ⅰ（各自10分間のプレゼン＋5分の質疑応答）（目標2）</li> <li>10. 脳科学の基礎Ⅰ（神経細胞、ニューラルネットワーク）＋調査課題Ⅷ（目標2）</li> <li>11. 脳科学の基礎Ⅱ（バックプロパゲーション、ディープラーニング、A I技術）＋調査課題Ⅸ（目標2）</li> <li>12. 脳科学の基礎Ⅲ（視覚心理と錯視）＋調査課題Ⅹ（目標3）</li> <li>13. 脳科学の基礎Ⅳ（脳・こころ・意識と知覚）＋調査課題Ⅺ（目標3）</li> <li>14. 3次元コンピュータグラフィックス（3DCG）の原理と応用（目標3）</li> <li>15. 3DCGソフトの活用による教材開発演習（目標3）</li> <li>16. 調査課題のプレゼンテーション&amp;質疑応答Ⅱ（各自15分間のプレゼン＋5分の質疑応答）（目標2）</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の方法：情報科学の基礎理論と関連技術の動向を理解し、自分の教育技術として活かすことができる。</p> <p>評価の基準：調査課題レポート（40点）、プレゼンテーション（40点）、授業中の取り組み姿勢（質疑応答等）（20点）</p>					
フィードバックの 方 法						
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：次回の授業のテーマについて、予め調査・研究しておく。</p> <p>復習：毎回の調査課題を整理し、自分なりのまとめのノートを作成しポートフォリオ化する。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：特になし</p> <p>参考書：三池秀敏、古賀和利編著「デジタル動画画像処理」（大学教育出版、2018年）、参考資料等：</p>					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	現代社会に求められている情報活用能力の基本を学び、実践に活かしましょう。					
備 考	E-Mail: miike@y-gakugei.ac.jp プレゼンテーション&質疑応答により評価を行い、期末試験は実施しない。					

授 業 科 目 名	教育特別研究 I	教 員 名	河北邦子、堂野 佐俊、名島潤慈、 川野哲也、佐藤 真澄、岩中貴裕	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM-5-9028-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演 習	年次配当	1 年前期	修 了 要 件	必 修	
単 位 数	2					
科 目						
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	問題意識の明確化、先行研究のレビュー					
授 業 概 要	学生の研究課題に即して、初歩的段階における研究指導を行う。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学問領域について把握するとともに、自らの問題意識を明らかにする。</li> <li>2. 問題意識を文章化したり発表したりする中で、各自の研究テーマを明確にする。</li> <li>3. 学問領域における最新の研究動向を調査し整理する。</li> <li>4. 研究アプローチについても吟味し、各自が依拠する研究アプローチを自覚する。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	指導においては修了後のキャリア形成を見据えて情報提供や相談を行う。					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学問領域の性格と課題 (目標 1,2,3,4)</li> <li>2. 学問領域の性格と課題 (目標 1,2,3,4)</li> <li>3. 学問領域の性格と課題 (目標 1,2,3,4)</li> <li>4. 最新の研究動向についての概観 (目標 1,2,3,4)</li> <li>5. 最新の研究動向についての概観 (目標 1,2,3,4)</li> <li>6. 最新の研究動向についての概観 (目標 1,2,3,4)</li> <li>7. 最新の研究動向についての概観 (目標 1,2,3,4)</li> <li>8. 最新の研究動向についての概観 (目標 1,2,3,4)</li> <li>9. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー (目標 1,2,3,4)</li> <li>10. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー (目標 1,2,3,4)</li> <li>11. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー (目標 1,2,3,4)</li> <li>12. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー (目標 1,2,3,4)</li> <li>13. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー (目標 1,2,3,4)</li> <li>14. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー (目標 1,2,3,4)</li> <li>15. 研究構想のまとめ (目標 1,2,3,4)</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：学問領域をふまえ、自分の研究テーマを明確にできるか。</p> <p>評価の方法：レポートの提出による。</p>					
フィードバックの 方 法	毎時、学生には課題を出す。課題回収後に解説を行う。					
時 間 外 の 学 習 について	<p>予習：次回の課題を予告した場合には、調べて予習すること。</p> <p>復習：授業で扱った内容については復習し、分からないことは調べておくこと。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト： } 特になし</p> <p>参考書： } 特になし</p> <p>参考資料等： }</p>					
担当者からの メ ッ セ ー ジ						
備 考						

授 業 科 目 名	教育特別研究Ⅱ	教 員 名	河北邦子、堂野 佐俊、名島潤慈、 川野哲也、佐藤 真澄、岩中貴裕	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM-5-9029-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演習					
単 位 数	2	年次配当	1年後期	修了要件	必修	
科 目						
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	調査、資料収集、分析、					
授 業 概 要	学生の研究課題に即して、調査段階・資料収集における研究指導を行う。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究アプローチに依拠しつつ文献資料の収集、精読、実態調査等を行う。</li> <li>2. 自己の解釈に基づいて先行研究を評価・解釈するとともに、問題意識を深化発展させる。</li> <li>3. (研究テーマによっては)実態調査や質問紙調査の研究方法についても学ぶ。</li> <li>4. 学術研究大会に参加するなどして研究活動の条件や研究の発展性についても学ぶ。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	指導においては修了後のキャリア形成を見据えて情報提供や相談を行う。					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究アプローチの確認 (目標 1,2,3,4)</li> <li>2. 文献資料の収集および精読 または実態調査 (目標 1,2,3,4)</li> <li>3. 文献資料の収集および精読 または実態調査 (目標 1,2,3,4)</li> <li>4. 文献資料の収集および精読 または実態調査 (目標 1,2,3,4)</li> <li>5. 文献資料の収集および精読 または実態調査 (目標 1,2,3,4)</li> <li>6. 文献資料の収集および精読 または実態調査 (目標 1,2,3,4)</li> <li>7. 文献資料の収集および精読 または実態調査 (目標 1,2,3,4)</li> <li>8. 文献資料の収集および精読 または実態調査 (目標 1,2,3,4)</li> <li>9. 文献資料の収集および精読 または実態調査 (目標 1,2,3,4)</li> <li>10. 文献資料の収集および精読 または実態調査 (目標 1,2,3,4)</li> <li>11. 文献資料の収集および精読 または実態調査 (目標 1,2,3,4)</li> <li>12. 文献資料の収集および精読 または実態調査 (目標 1,2,3,4)</li> <li>13. 文献資料の収集および精読 または実態調査 (目標 1,2,3,4)</li> <li>14. 文献資料の収集および精読 または実態調査 (目標 1,2,3,4)</li> <li>15. 調査結果のまとめ、資料整理 (目標 1,2,3,4)</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：文献資料をよみとくことができるか、実態調査の方法を理解したか。</p> <p>評価の方法：レポートの提出による。</p>					
フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	毎時、学生には課題を出す。課題回収後に解説を行う。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：次回の課題を予告した場合には、調べて予習すること。</p> <p>復習：授業で扱った内容については復習し、分からないことは調べておくこと。</p>					
教 材 に か か わ る 情 報	<p>テキスト： } 特になし</p> <p>参考書： } 特になし</p> <p>参考資料等： }</p>					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ						
備 考						



授 業 科 目 名	教育特別研究Ⅲ	教 員 名	河北邦子、堂野 佐俊、名島潤慈、 川野哲也、佐藤 真澄、岩中貴裕	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM-6-9030-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演 習					
単 位 数	2	年次配当	2年前期	修 了 要 件	必 修	
科 目						
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	発展的調査、資料の解釈や議論、					
授 業 概 要	学生の研究課題に即して、発展的段階における研究指導を行う。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 収集した文献資料やデータを整理し、必要に応じて追加調査を行う。</li> <li>2. 各自の研究目的に即した形での解釈や吟味を行う。</li> <li>3. 問題意識、研究目的、研究方法、研究成果などの一貫性および妥当性について吟味する。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献資料および調査結果の確認および整理 (目標 1,2,3)</li> <li>2. 文献資料および調査結果の確認および整理 (目標 1,2,3)</li> <li>3. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味 (目標 1,2,3)</li> <li>4. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味 (目標 1,2,3)</li> <li>5. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味 (目標 1,2,3)</li> <li>6. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味 (目標 1,2,3)</li> <li>7. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味 (目標 1,2,3)</li> <li>8. 研究論文の執筆および解釈をめぐる議論 (目標 1,2,3)</li> <li>9. 研究論文の執筆および解釈をめぐる議論 (目標 1,2,3)</li> <li>10. 研究論文の執筆および解釈をめぐる議論 (目標 1,2,3)</li> <li>11. 補足的調査および文献資料の収集 (目標 1,2,3)</li> <li>12. 補足的調査および文献資料の収集 (目標 1,2,3)</li> <li>13. 補足的調査および文献資料の収集 (目標 1,2,3)</li> <li>14. 補足的調査および文献資料の収集 (目標 1,2,3)</li> <li>15. 研究論文の全体像を吟味 (目標 1,2,3)</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：問題意識、研究目的との関係で文献資料、調査結果を評価解釈できるか。</p> <p>評価の方法：レポートの提出による。</p>					
フィードバックの 方 法	毎時、学生には課題を出す。課題回収後に解説を行う。					
時 間 外 の 学 習 について	<p>予習：次回の課題を予告した場合には、調べて予習すること。</p> <p>復習：授業で扱った内容については復習し、分からないことは調べておくこと。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト： }          参考書： } 特になし          参考資料等： }</p>					
担当者からの メ ッ セ ー ジ						
備 考						

授 業 科 目 名	教育特別研究Ⅳ	教 員 名	河北邦子、堂野 佐俊、名島潤慈、 川野哲也、佐藤 真澄、岩中貴裕	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM-6-9031-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演習	年次配当	2年後期	修 了 要 件	必修	
単 位 数	2					
科 目						
各科目に含める ことが必要な事項						
授 業 テ ー マ	研究論文の作成、研究成果についての議論、					
授 業 概 要	学生の研究課題に即して、完成的段階における研究指導を行う。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生の調査および研究の成果を発表したり、他の学生や研究者と議論したりすることによって自己の研究成果を相対化する。</li> <li>2. 学術用語や概念を用いて論文を作成し、研究成果として弱い部分について補強する。</li> <li>3. 各自の研究成果が学問上いかに有益であるか、あるいは教育実践にいかに有益であるかを説明し、議論する。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論文作成における指導 (目標 1,2,3)</li> <li>2. 論文作成における指導 (目標 1,2,3)</li> <li>3. 論文作成における指導 (目標 1,2,3)</li> <li>4. 論文作成における指導 (目標 1,2,3)</li> <li>5. 論文作成における指導 (目標 1,2,3)</li> <li>6. 論文作成における指導 (目標 1,2,3)</li> <li>7. 論文作成における指導 (目標 1,2,3)</li> <li>8. 論文作成における指導 (目標 1,2,3)</li> <li>9. 論文作成における指導 (目標 1,2,3)</li> <li>10. 論文作成における指導 (目標 1,2,3)</li> <li>11. 論文作成における指導 (目標 1,2,3)</li> <li>12. 論文作成における指導 (目標 1,2,3)</li> <li>13. 研究発表会の準備 (目標 1,2,3)</li> <li>14. 研究発表会 (目標 1,2,3)</li> <li>15. ディスカッションおよび反省 (目標 1,2,3)</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の基準：研究成果全体を整理し、その意義と課題を考察できるか。</p> <p>評価の方法：レポートの提出による。</p>					
フィードバックの 方 法	毎時、学生には課題を出す。課題回収後に解説を行う。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：次回の課題を予告した場合には、調べて予習すること。</p> <p>復習：授業で扱った内容については復習し、分からないことは調べておくこと。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト： } 特になし</p> <p>参考書： } 特になし</p> <p>参考資料等： }</p>					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ						
備 考						